

26 (推) /1-4

## ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP)

### 平成 26 年度第 2 回推進委員会

#### 議事概要 (案)

#### 1. 日時・会場

平成 27 年 2 月 9 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 00

文部科学省東館 5 階 5F5 会議室

#### 2. 出席者

##### 推進委員会委員

漆原 秀子	筑波大学生命環境系教授
(副主査) 小幡 裕一	理化学研究所バイオリソースセンター長
河瀬 眞琴	筑波大学留学生センター教授
(主査) 小原 雄治	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所特任教授
城石 俊彦	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所副所長・教授
林 哲也	宮崎大学フロンティア科学実験総合センター長

##### 文部科学省

馬場 大輔	研究振興局ライフサイエンス課課長補佐
渡邊 淳	研究振興局ライフサイエンス課ゲノム研究企画調整官
中川原 秀樹	研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係長
齋藤 正明	研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係員

##### 東京医科歯科大学

泰羅 雅登 教授 (ニホンザル運営委員会委員長)

##### 自然科学研究機構生理学研究所

伊佐 正 教授 (ニホンザル代表機関課題管理者)

##### 京都大学霊長類研究所

中村 克樹 教授 (ニホンザル分担機関課題管理者)

##### 東京大学医科学研究所附属病院

長村 登紀子 准教授 (研究用ヒト臍帯血幹細胞代表機関課題管理者)

##### 理化学研究所バイオリソースセンター

中村 幸夫 室長 (研究用ヒト臍帯血幹細胞分担機関課題管理者)

##### 医薬基盤研究所

小原 有弘 難病・疾患資源研究部培養資源研究室研究サブリーダー

日本医療研究開発機構設立準備室企画班

佐々木 祥平

理化学研究所

尾前 二三雄 研究推進部企画課主幹

情報・システム研究機構国立遺伝学研究所

柴川 芳範 管理部総務企画課長

NBRP 事務局

佐藤 清 事務局長

小島美智代 事務局員

佐藤 紀子 事務局員

櫻井 美里 事務局員

### 3. 議事

開会

挨拶

1. 平成 26 年度 NBRP 事業報告について（資料 1）
2. 中間評価への対応について（資料 2-1～3）
3. 平成 27 年度 NBRP 予算（案）について（資料 3）
4. 臍帯血リソース調査報告等について（資料 4）
5. ニホンザル SRV 感染について
6. その他（資料 5-1～3）

閉会

### 4. 配布資料

資料 1 : 平成 26 年度 NBRP 事業報告について

資料 2-1 : 中間評価の指摘事項に対する今後の対応について

資料 2-2 : ナショナルバイオリソースプロジェクト評価報告書（平成 26 年 8 月）

資料 2-3 : 中間評価への対応について

資料 3 : 平成 27 年度 NBRP 予算（案）について

資料 4 : 研究用臍帯血の利用状況に関する調査報告書（案）

資料 5-1 : 研究機関等における動物実験に係る体制整備の状況等に関する調査結果について

資料 5-2 : 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針

資料 5-3 : 日本医療研究開発機構について

参考資料

参考資料 1 : NBRP 平成 26 年度第 2 回推進委員会出席者名簿

参考資料 2 : NBRP 平成 26 年度第 1 回推進委員会議事概要

## 議事概要

### 開会

- ・佐藤局長より配布資料の確認後、オブザーバー2名より挨拶があった。

### 挨拶

- ・小原主査、文部科学省ライフサイエンス課の渡邊調整官より挨拶があった。

## 1. 平成 26 年度 NBRP 事業報告について

### ＜佐藤事務局長より資料 1 に基づいて説明＞

- ・中間評価が行われ、評価結果が公表された。その他、推進委員会、Site Visit、公開成果報告会、リソース運営委員会、学会での展示会など広報活動を行った。

## 2. 中間評価への対応について

### ＜中川原係長より資料 2-1~3 に基づいて説明＞

- ・事業全体としては非常に良い評価だが、各課題については幾つか指摘事項がある。課題管理者には来年度以降の事業計画に反映するようお願いしている。

また、課題管理者からは評価の基準、総評への判定根拠などの質問があった。

- 「参画機関からの論文数が少ない」という指摘は、何を意図したものか。(小原主査)

→実施者ももう少し論文を発表すべきとのコメントだと思う。(中川原係長)

→自家使用になるのではないか。(小原主査)

→そういうコメントが寄せられたリソースもある。(中川原係長)

- 評価者がこの事業を本当に理解しているのかと感じられるコメントがあった。(小幡副主査)

- 評価のガイダンスが必要かもしれない。(城石委員)

- 評価委員のコメントをそのまま課題管理者に渡して対応しなさいでは、ゆがんでしまう。そこは気をつけたい。(漆原委員)

- 課題管理者は指摘された内容を認識しているのか。(小幡副主査)

→認識はしていると思うが、納得しているかどうかは別だろう。(中川原係長)

- 研究支援プロジェクトと実施担当者が頑張らなくてはいけないプロジェクトと一緒に評価すると、ねじれた評価になってしまうので徹底を図るべき。(城石委員)

- 一方で、評価委員会よりさらに外だと、詳しいことは知らずに見た目で評価する。それに耐え得る工夫も必要。(小原主査)

- 評価に当たっては、評価委員会では、評価コメントを集めるだけでなく、議論されているのか。(小原主査)

→書面審査が中心だが、推進委員会の主査・副主査に事業全体の説明をして頂いている。

1 課題に複数の委員が付き、委員会で評価内容を審議している。(中川原係長)

→ただ、ヒアリング、指摘に反論する場がなかった。事後評価のときには、もう少し丁寧なやり方が必要だと思っている。(渡邊調整官)

- 評価委員会とやり取りすることで委員会の質が向上し、より良いプログラムが形成できるのではないか。(小幡副主査)

- フィードバックのチャンスがあると、両方が認識を深められる。(小原主査)

- 成果は、保存数、提供数、論文数が基本だが、リソースによって、それに加えるものがあれば、特記すべき成果として書かせるところがあってもよい。27年度の計画に反映されてくると思う。(小幡副主査)

### 3. 平成 27 年度 NBRP 予算 (案) について

#### <渡邊調整官より資料 3 に基づいて説明>

- ・今年度と同額だが、基盤技術整備プログラムは中止し、ゲノム情報等整備プログラムは AMED に移管してから公募。評価も踏まえ、めりはりを付けて配分したい。
- NBRP が 24 種になっている。理研のものは数には入らないのか。(小原主査)
  - 理研の交付金でやっているの、予算としては外ということだ。(渡邊調整官)
- 関係するプロジェクトであることは間違いないので、国としては全体を大きく見せてアピールした方が得策ではないか。(城石委員)
  - 予算で分かれる部分があるが、一体感があるよう説明している。(渡邊調整官)
- 来年度からは補助金ではなくなるのか。(小幡副主査)
  - 現在補助金の制度は、基本的には補助金で実施すると聞いている。NBRP は引き続き補助金でやる。(中川原係長)
- 間接経費が付く、付かないという話も聞いているが。(漆原委員)
  - まだはっきりしていない。(中川原係長)

### 4. 臍帯血リソース調査報告等について

#### <代表機関課題管理者 (長村准教授) より資料 4 に基づいて説明>

- ・ニーズを把握し、今後の展開を検討するために調査を実施。この結果を基に対応し、認知度を高める努力もしていきたい。
- 回答者数は現在のわが国の研究者のどの程度をカバーしているのか。(小原主査)
  - ある程度は全体を反映しているが、企業からの回答が少なかった。(長村准教授)
- 研究用臍帯血の入手先は病院がかなり多いが、中身は違うのか。(林委員)
  - 病院も臨床用公的臍帯血バンクも、新鮮臍帯血だけだ。(長村准教授)
- そこを強調しないと特色が出てこない。(林委員)
- 理研 BRC のバンクがないと困ることを端的に答えてもらいたい。(小原主査)
  - 臨床用の臍帯血バンクが統廃合され、入手が難しい先生が増えている。理研 BRC が提供を中止したら支障があると、理研 BRC 臍帯血利用者の 93.5%が答えている。(長村准教授)
- 調査を受けて、事業の内容をこう変えたいというものはあるのか。(城石委員)
  - 凍結臍帯血の利用の仕方を提示し、要望のある CD3、4、8、陽性細胞、樹状細胞が現在の試料から得られることをアピールしたい。また、理研 BRC が臍帯血を提供していることを周知、広報していきたい。(長村准教授)
- 周知させるのはいいが、パンフレットだけでは駄目だ。利用者の多い学会に行ってブースを出すのが一番早い。潜在的利用者や他のバンクから購入している人がどうすれば利用者になるか検討し、実行してほしい。(小幡副主査)
- 理研 BRC の臍帯血提供を知らながら、他から入手しているケースはあるか。(漆原委員)
  - ある。理由は、手続きが面倒なこと、手数料が高いことと、自施設内で入手ルートがあることだ。そういうルートがない潜在的な利用者への広報が必要だと考えている。(長

村准教授)

- コンプライアンスや安全性の問題がないことを強調し、安全を確保するための検査費用で手数料が高くなっているということも含めて、周知する必要がある。(小幡副主査)
- 来年度以降、事業にどのように変更があるのか。(小原主査)
  - ニーズ調査とこれまでの提供数を鑑みて、来年度も当初の目標どおりの処理数でいく。CD3、4、8、陽性細胞、樹状細胞に関して、ユーザーが既存の凍結試料から純化培養できるよう、ホームページに情報を載せていきたい。(長村准教授)
  - 新鮮臍帯血は当日中に使わなければならないが、凍結臍帯血は実験予定に合わせて使える。一気に大量に提供(利用)できる点でも重要である。(中村室長)
- それを売りにしてほしい。CD3、4、8 陽性細胞も、プロトコルを見せるだけでなく、トレーニングコースを実施するとよい。(小幡副主査)
- iPS 細胞を作る目的で出しているものも既にあるのか。(小原主査)
  - 何件か課題はある。ICについては、今は医学全般に目的を広げ、iPS 細胞を含めて細胞株を樹立することも説明書に書いてあるので、問題ない。(中村室長)
- 間葉系幹細胞の要望が高いが、作るのはかなり難しいのか。(城石委員)
  - 非常に難しいが、臍帯血から間葉系細胞が取れば、今あるバンクの何千何万というソースが間葉系細胞のソースとなり得るので非常に魅力的だ。(長村准教授)
- そこを強くすることが、このリソース自体の価値を相当高めると思う。(城石委員)

## 5. ニホンザル SRV 感染について

<運営委員会委員長(泰羅教授)より説明>

- ・沈黙していたサルレトロウイルス症が生理研施設で再び発生したため、第1報の報告がなされた。

## 6. その他

動物実験に係る体制整備の状況について

<渡邊調整官より資料 5-1~2 に基づいて説明>

- ・4月に全研究機関を対象に調査を行い、基本指針の遵守が不十分な機関を指導して、1月末時点で動物実験を実施している426機関全てが対応済みとなった。

日本医療研究開発機構(AMED)について

<中川原係長より資料 5-3 に基づいて説明>

- ・本年4月1日に日本医療研究開発機構が設立され、NBRPはバイオバンク事業部の中に配置される。本推進委員会はAMEDに事業移行後も設置され、NBRPの事務局機能はAMEDに移管される。
- 運営はどのようなメンバーで行うことになるのか。(小原主査)
  - 事務局の仕事をAMEDが引き継ぐ。大きく性格を変えない方向で、引き続き小原先生と小幡先生に中心的に担っていただき、有識者の声を聞きながら進めることになる。(中川原係長)
- 最終的なジャッジは理事長がするのか。(小原主査)
  - PDと理事長が連携して必要な事業の拡充や新規事業の追加をする。(AMED 佐々木様)
  - 機構は各省の補助金および文科省からの運営費交付金で運営される。文科省は基盤的

なものに補助金を支出するので、医療に偏れば当然問題提起し、ディスカッションする。各省の補助要綱やルールを現場に負担が掛からない形で標準化し、グッドプラクティスを共有していく。PD、PO 制度等でプロジェクト管理をしっかりすべきとの共通認識は、本機構においても出してもらっている。(馬場課長補佐)

- 補助金か委託費かといったことは最終的に誰が決めるのか。(小原主査)

→NBRP は、もともと委託費で事業を実施してきたものが補助金化し、ある程度分散的な拠点になっている。各拠点の自立性を促進する観点からは、補助金の方がいいかもしれない。事務的な部分は、引き続き相談している。(馬場課長補佐)

- 補助金だと、一般管理費等の事務的な経費にミシン目を入れることはできないのか。(小原主査)

→間接経費を付けないのが一般的。科研費の方が例外と聞いている。(渡邊調整官)

- 間接経費を付けるにしても、トータルは決まっているので直接経費が減るだけだが、各大学や機関が受け入れるためには何がしかの管理費がないとつらい。その辺の工夫はできるのか。補助金だと、それは一切まかりならないのか。(小原主査)

→こちらから AMED に出す、出さないというよりも、対財務省への予算要求の段階での課題かもしれない。(渡邊調整官)

- プロジェクトごとに間接費が付いたり付かなかったりがあり得るのか。(城石委員)

→標準的なルールがまずあって、特例をどこまで認めるかだ。できる限りそろえることが望ましい。あまり部分最適的にならずに全体を見て、メリットとデメリットがそれぞれある中でいい形にしていくことが重要だ。(馬場課長補佐)

- 次の整備戦略を立てなくてはならない。整備戦略会議は文科省とやるのか。(小幡副主査)

→最終的には文科省で審議会等の意見を聞きながら政策的に決定し、補助金等で機構に執行を任せるという流れになるだろう。二重行政にならぬよう一体感を持つことが重要。最終的には、理事長が PS、PO 含めて任命をする。(馬場課長補佐)

## 5. 閉会